（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社OPLUS　FLOW八尾			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　3日		～	2025年3月3日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	65	（回答者数）	60
○従業者評価実施期間	2025年　2月　１０日		～	2025年　2月　１７日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○　感覚統合理論にもとづく作業療法士・理学療法士・保育士の専門職による個別療育。	・知識・技術向上のための教育体制。ビデオ撮影などをして療育を振り返る、研修参加などの自己研鑽に努めている。 ・安全面の観点やよりダイナミックに遊んで頂けるようにスタッフを2名配置する事がある。	・引き続き日々の療育の振り返りと知識、技術の向上に努めます。 ・保護者にも遊びの目的や意図を理解しやすいように専門性を含め説明出来るようにして行きたいと思います。
2	○　身体を使った遊びを通した支援するプログラム。	・課題設定型ではなくお子さんが主体とする遊びにお子さんの課題を盛り込んで楽しく遊びながら成長して頂けるようにしている。 ・「Just　right　challenge」お子さんにとって最適な課題、チャレンジが出来るように遊びを工夫している。	・お子さんの生活面での課題解決に繋がるように保護者との情報共有をより深めていきたい。
3	○　保護者同伴の利用形態。 お子さんの成長や頑張っている姿を見てもらえる。保護者と共有が出来る。時に遊びながらやり取りをしたり保護者にも協力をして頂く事がある。	・療育終了時にその日の様子を一緒に振り返る。日常での様子を聞き、課題解決を一緒に考えるようにしている。 ・遊び場面を日常生活の課題に繋げて評価、考察し日常での課題解決に繋がるようなアドバイスや方法を提案するようにしている。	・保護者の目にも変化や成長が分かりやすい遊びや説明を心掛ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○　プログラム内容が決まった物ではなく自由な遊びを通したスタイルであるため、保護者から提供する遊びにスタッフによる違いや統一した関わりと感じづらい印象を受けるかもしれない。	・staffの経験年数、年齢が幅広い。経験や技術の偏りがある。 ・遊びの場面を日常生活に結び付けて解釈し保護者に説明し提案することの難しさ。	・より一層の知識、技術の向上を目指す。 ・経験年数が高いセラピストが様々な療育に入り、評価、担当スタッフに指導するなど統一した方向性や狙いの持った支援が出来るように努める。
2	○　ダイナミックな遊びをする際や小学生以上のお子さんが2名以上、部屋を使用する際は狭く感じることがある。接触のリスクも上がるため注意が工夫が必要。	・スタッフの配置基準や部屋面積は基準を満たしているが、大型の遊具を室内で使う事もあり、狭く感じると考えられる。一層のリスク管理が必要。	・お子さんの特性、部屋の環境、遊具の特徴など様々な物をを加味し、リスク管理や狭さを感じさせない環境設定が出来るようにする。定期的にスタッフ間で環境を見直し適宜、調整していく。
3	○　現在は個別療育のみの支援サービスであるため、集団での課題があるお子さんに直接的な支援、介入は出来ていない。	・個別療育を中心とした支援サービスを強みとしているため。	・保護者からの情報収集や個別療育の様子から評価、予測をし保護者と解決の方法を一緒に考えていく。 ・関係機関連携加算などを通じ園や集団の場に出向き情報の共有や話合いができる場を積極的に作っていく。